

① はまなか

議会だより

NO124
平成30年4月25日発行



笑顔で入場…霧多布保育所入所式

3月定例会

予 算 議	移住定住をめざしたお試し住宅の概要は	4P~10P
	委員会レポート	12P~13P
一 般 問	7人の議員が町政を問う	15P~21P
	雲外蒼天 (対馬 瑞季さん)	22P

若い世代への環境づくり

平成30年度の一般会計予算

総額74億8969万円に

3月
定例会
7日～15日

平成30年第1回定例会
が3月7日から、9日間
(休会日2日含む)の会期
で開かれました。町長か
ら町政執行方針、教育長
から教育執行方針が
示され予算審議など活発
な議論が展開されました。
今定例会には、平成29
年度の補正予算をはじめ、
平成30年度当初予算およ
び条例の制定など34議案
が上程され、いずれも原
案どおり可決しました。
また、一般質問では7
人の議員が登壇しました。

〈主な施策〉

- 一、第6次総合計画策定へ始動
- 一、移住定住対策を推進
- 一、後継者就業交付金を
町内在住者へも拡大
- 一、ウニ種苗センター建設地の
地質調査
- 一、ドローン(小型無人飛行機)の
導入・活用
- 一、障がい者活動拠点施設の
供用開始(旧榊町小での地域
活動支援センター他)
- 一、特養施設で働く介護職員の
処遇改善
- 一、庁舎建設に係る避難道路の造成
- 一、茶内保育所の建設に着手
- 一、子育て支援の継続
(子ども医療費助成など)
- 一、「ゆうゆ」を指定管理者へ移行

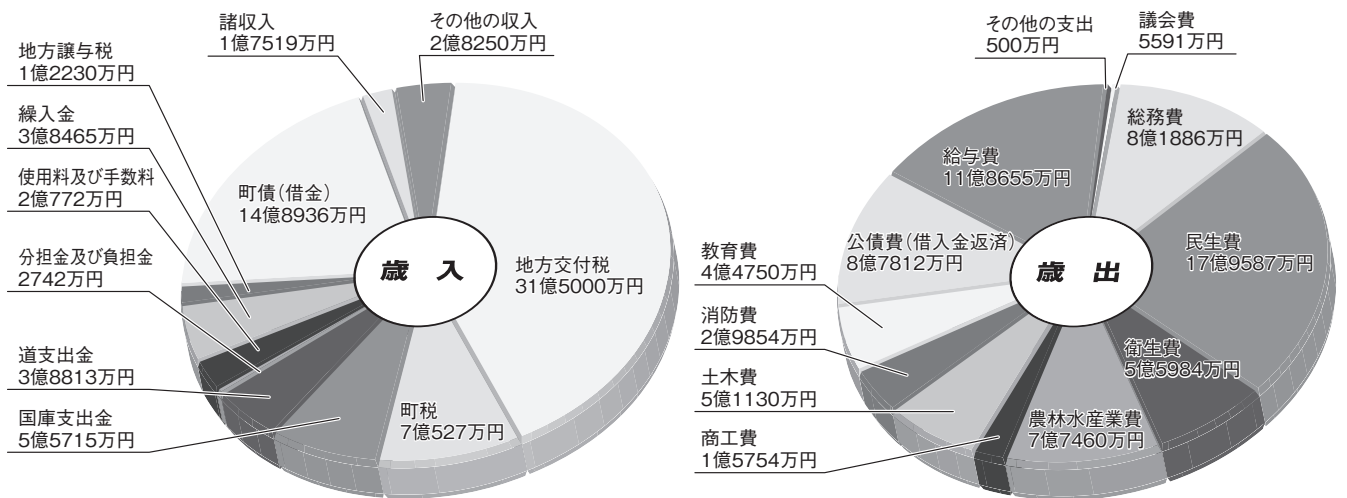


頑張る若い後継者

新年度も町政執行の
基本施策を継続!

予算の概要

平成30年度一般会計内訳



平成30年度各会計の当初予算

会計別	歳入歳出予算額		増減率 (%)	一般会計からの 繰出金		
	平成30年度	平成29年度				
一般会計	74億8969万円	73億9280万円	1.3			
特別会計	国民健康保険	11億3630万円	14億4226万円	△ 21.2	5198万円 ←	
	後期高齢者医療	7862万円	6806万円	15.5	2366万円 ←	
	介護保険	4億7425万円	4億4971万円	5.5	6902万円 ←	
	浜中診療所	2億5412万円	2億5504万円	△ 0.4	1億4052万円 ←	
	下水道事業	4億488万円	4億1228万円	△ 1.8	2億7932万円 ←	
合計	98億3786万円	100億2015万円	△ 1.8	5億6450万円 ←		
企業会計 (企業会計とは、民間企業と同じような経理を行う会計です。)						
	収入	支出	収入	支出	増減率 (%)	一般会計からの 補助金
水道事業	1億9210万円	1億9210万円	1億9369万円	1億9369万円	△ 0.8	
	3809万円	8907万円	316万円	5376万円	65.6	5480万円 ←

※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額5098万円は、過年度分損益勘定留保資金などで補てんする。

予算審議から

移住定住をめざした お試し住宅の概要は

問 執行方針に掲げる移住・定住施策の「お試し住宅」は、新川の霧多布高校の旧校長住宅を900万円で改修し提供するものであるが、その目的、募集方法、使用料の有無、住宅の間取り、施設内備品などの配備は。

また、霧多布市街に民間も含めて相当空き家があるが、このお試し住宅に活用できないか。

なお、地域おこし協力隊の活用で移住・定住対策を企画実行することになる協力隊員は1人でなく複数の配置が必要と思うが。さらに、民宿を活用して人手・労働力不足を解消する仕組みを検討できないか。

答 お試し住宅の目的は、夏・冬の期間を問わず浜中町の自然探訪、真夏の避暑などの体感から、本町に移り住む人を増やすことと考

えている。

募集方法は、本町での体験生活を広くネットで周知するほか、他の町を参考に応募の情報を提供する。

使用料は、現在の町有住宅料が基本となる。

この住宅は、昭和53年に建設された68・04平方メートルのブロック造、平屋建て、間取りは居間と和室である。内部設備は、照明器具、暖房、電子レンジ、洗濯機、冷蔵庫、ガス台などを配備するが寝具（布団）の配備は今後検討したい。

また、空き家の活用は、月1回の関係課職員による民間空き家検討委員会での協議しているが家主の意向も聞いて判断する時期が来ると思っている。

なお、地域おこし協力隊は、現在1名の募集であるが、移住・定住施策を進めるには相談する相手がいて充実した仕事ができるとの

観点に立って、2人目を募集することも必要と考えている。

さらに、人手不足の対策として、避暑などを目的に長期滞在する来町者に何か

月かアルバイトをお願いする仕組みを提案されたが、町内にある民宿事業者との話し合いも必要と思う。民宿の活用も一つのアイデアだと捉えている。



改修されるお試し住宅

浜中福祉会への補助の内容は

＝処遇改善の内容＝

事業名	事業内容	予算額
介護福祉士奨学資金貸付事業	介護職に関する専門学校に入校し、資格取得～卒業後、介護福祉士として3年以上同法人に勤務しようとするものに対し、修学に必要な資金の一部を貸付するもの（3年間勤務した場合は返還を免除する）。	240万円 (2人分)
介護職員志願者支援支給事業	介護職員として3年以上就業を希望する者のうち、理事長が相当と認めた者に支援金を支給するもの。 ※支給額 試用期間 6カ月経過時 20万円 1年経過時 20万円 2年経過時 20万円 (支給を受けた者が規程に定める年数に達せず退職した場合は支援金を返還する)	120万円 (6人分)
特殊業務手当の改定	職務が複雑かつ特殊な業務で、給与上特別な配慮を必要とする業務に対し支給している「特殊業務手当」は、現在他事業所と比較して低い額となっていることから、増額改定しようとするもの。	970,000円 (28人分)
介護職員処遇改善加算	国で定められた条件をクリアすることで得られる介護報酬加算は、職員の一時金として支給しているが、国からの支給額が職場により異なることから、平等に支給しその処遇の改善をはかるもの。	1,354,000円 (21人分)

問 社会福祉法人浜中福祉会への補助1494万円の内容は。

答 261万円が本部事業に対するもので事務費に補助するもの。食器洗浄機などの施設用備品に対する補助が640万円、介護職員の人材確保や処遇改善に関する補助金が592万円であり、内訳は左表のとおり。

問 茶内支所改修工事の実設計委託料600万円は、耐震診断の結果を受けての改修設計であるが、業務窓口の一部改修内容は、また、災害時、第二災害時

茶内支所の耐震・改修の内容は



奮闘する介護職員

策本部になる予定もあり、全体的な改修を財源の見通しを得、時間をかけて検討すべきでは。なお、実施設計ができた段階で平面図や耐震補強

図、設計額などの事前説明は。

答 茶内支所は、昭和53年の建築であり、安全性を確かめる耐震診断をした結果、基準を満たすための補強工事が必要で、設計業者から示された外壁、内部も含めて補強を行う。併せて窓口の一部を改修する実施設計費を計上。

改修内容は、受付のローウンター化と周辺の壁、ストーブの移設、壁の一部張り替えなどを想定している。工事は、財源面から31年度以降となる。

具体的な中身と財源確保は、11月までに青写真を作るため、町民の意見や担当課、建築担当とも協議し、その概要を説明したい。

なお、全体的な改修に向けての財源対策は、現時点で第二災害対策本部や避難所指定もないので、緊防債の対象にはならない。緊防債の活用は、制度的に間に合うかという問題もあるので、時間をかけて検討したい。

配食サービスの内容は



5月から始動する活動支援センター

問 地域活動支援センター委託料1132万円で行う事業内容は。

答 5月に供用開始する地域活動支援センターは障が

い者の活動拠点でカフェの運営やお弁当の配食サービスなどを行うもの。配食の対象は65歳以上の高齢者で調理が難しい人や要支援者と障がい者が対象となる。月曜日から金曜日の昼食の配送となり、1食500円で30食の予定。

「ゆづゆ」の修繕内容と指定管理への移行は

問 ふれあい交流保養センターの温泉源保守点検委託料1126万円の点検内容と工事請負費1087万円は、源泉棟真空ボイラー更新ほかであるが、工事内容の説明と指定管理者制度の活用による民間委託の時期は。

また、前回から進めている施設改修は、将来的な「ゆづゆ」の指定管理への方向性も見据えた予算計上なのか。

答 「ゆづゆ」の源泉は7年前に揚湯管が腐食し、揚湯が不能になる事故が発生。当時は腐食した2本を取り替えたが残る揚湯管は21年経っており、これらの状況把握の点検委託と同時に接合部分などネジの金属疲労も考えられるので、併せて部品交換するもの。工事請負費は、源泉棟のボイラーの更新537万円、ろ過装置ろ材の取り替

え工事381万円、源泉棟のガス警報器の更新124万円、浴室のプライバシーを守る窓フィルム45万円となっている。なお、今回の点検と工事は、温泉井戸(温泉の温度、

11℃・湯量毎分約10ℓ)を維持していくための工事である。また、指定管理者の選考はプロポーザル方式にて決り、9月末までに協定の締結を予定している。

※プロポーザル方式とは、複数の者に企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った者を選定すること。

茶内保育所改築の内容は

問 茶内保育所改築工事費は、10億2千万円とかなり高額だが工事の内訳と高額となった理由は。他町の同規模保育所との工事費の比較は行ったのか。また、通所時の駐車場の安全確保は。

答 概算で建築工事4億1500万円、電気工事9200万円、機械工事1億6000万円、厨房機器工事2300万円、付帯工事1500万円、土木工事1億1

400万円、地中熱工事費2億5500万円となる。構造は木造で鉄筋コンクリート造と比較すると高くなり、地中熱システムや遊具などを含んだ額である。他の保育所との比較は、南富良野町で最近建てられた保育所を参考にした。

駐車場の安全対策は、混雑時に建物側に駐車することで子どもたちが乗降車時に駐車場を通らないよう配慮する。

ウニ種苗センターの建設は

問 種苗センター建設予定地の地質調査費365万円が計上された。以下質問する。

*建設場所と種苗数を含めた施設規模および供給範囲は。

*概算建設費と財源対策および今後のスケジュールは。

*運営主体と維持管理体制および技術的な支援は。

*種苗センターを持つことのメリットは。

*散布漁協の新規着業者数と養殖場所および雨水対策は。

*安定生産が図れる陸上養殖の可能性を探る試験施設併設の考えは。

答 建設予定地は、散布漁協市場裏の漁港用地。

計画している施設は、厚岸種苗センターで生産された300万粒を育成するもので、海水を循環させる装置と水槽30基を設置する。

供給範囲は、浜中・散布両漁協である。

現在、700万粒の種苗を扱っていて、160万粒は厚岸からの供給で、540万粒を羅臼・野付・知内から購入しているが、このうち300万粒を自前で生産する計画である。

概算建設費は、約4億4千万円で、国庫補助と残りは過疎債を見込んでおり、31年度実施設計、翌年度建設で33年度供用開始を目指している。

運営方法は、厚岸の例(自治体と漁協で運営協議会を設置し、漁協が委託を受け維持管理を実施している)を参考に検討して行く。

また技術的な面は、20年以上の実績がある厚岸漁協の協力を得て、人材育成を図って行く。

建設によるメリットは、稚ウニ購入費(約4千万円)の軽減と雇用の場が生まれるなどの経済的効果。生産

者の都合に合わせた種苗数の調整や浜中海域に適した種苗の育成が図られる。

散布漁協の新規着業者は8人で、浚渫工事が実施されている丸山散布漁港の一部を予定。

雨水対策は、塩分濃度計を設置して監視を行っているが、今後も漁協・大学な

どの研究機関とも連携し対応を検討して行く。

陸上養殖は、現在、日本海側で磯焼け対策から陸上養殖試験を実施しており技術的には可能とのこと。ただ、エサの確保や電気代などコスト面からも将来的な検討課題と捉えている。



厚岸町のウニ種苗センター

漁業近代化資金の利子補給は

問 利子補給金341万円の内訳は。また、保証協会保証料にも補助する考えは。

答 補給金は浜中漁協が10件で5千万円、散布漁協が11件で5785万円、合わせて21件で1億785万円の利息を補給するもの。上限利率1・5割までの補給となる。

保証料への助成は、災害復旧などを除いては全道的に実施されていなかったが今年度、実施に向けた動きが出てきている。

条例事項であり、保証料の払い方もさまざまであり、農業・商工業にも同様の制度があることなど整理すべき課題はあるが、6月補正での対応を考えている。

公営住宅新築工事の内容は

問 公営住宅新築工事1億3500万円の工期と入札の方法および今後の計画は。また、移転補償費70万円の内容は。

答 浜中市街に建設される公営住宅は、1棟4戸で工期は6月下旬から12月中旬の予定である。入札は指名競争入札を考えている。

移転補償費の内容は、現在公住に入居している4戸の新築公住への移転経費で引越しに要する費用と電話の移設費用などで1戸あたり17万円を見込んでいます。今後の建設計画は、平成31年度にも同じ場所に1棟4戸を建設する予定。

ドローンの購入と活用は

問 港湾管理運営に要する経費、ドローン（小型無人飛行機）購入費45万円の使

用目的と管理・操作担当部署および操作訓練の方法は。ドローン自体の性能と損

害保険への加入は。また、水産課以外での活用は。

答 主に水産関連の維持管理業務での活用で、防波堤・離岸堤・瀬戸などの状況確認や養殖漁場の監視など。管理は水産課であるが、免許などの資格は要しないことから、他の部署においても職員研修の中で操作訓

練をすることで、防災・観光などでの活用が考えられる。訓練方法は、購入先を選定する際に操作訓練を実施している業者とする。

性能は、飛行時間30分・操作距離4kmで、障害物回避や自動帰還機能が付いている。保険料は年額約4万円。機体と賠償責任保険に加入する。

後継者の就業状況は

問 後継者就業交付金事業の29年度実績と30年度新規申請予定者数は。

また、町内在住者まで枠を拡大した効果と周知方法は。

答 漁業では、29年度7人が承認され、30年度予定者は浜中漁協では、新卒者6人とUターン者1人で、内2人は漁業研修所から戻ったからの承認となる。散布漁協からは1人が申請となる。

また、町内企業従事者からも問い合わせがあり、申請があった場合は補正での対応となる。

農業では、29年度3人が承認され、30年度は専門学校卒業生1人と町内企業からのUターン者1人を予定している。なお、3月高校卒業生が8人おり、申請があれば補正対応となる。商工業では、29年度承認された2人が継続となる。周知は町広報と各組合・商工会を通じて行う。



ドローンで撮影された琵琶瀬瀬戸

「MOTTOかぜて」の 改修と利用状況は

問 中山間活性化施設改修
工事165万円の内容と施
設の利用状況は。
また、使用されていない



親子で楽しむピザづくり

管理棟を宿泊所に利用する
考えは。

答 改修内容は、牛乳・チ
ーズ加工室のエアコン改修
である。

施設の利用状況は、施設
全体で28年度は、554件
3069人、29年度は、7
34件3724人である。
利用増の要因は、「かぜて」

を利用して8団体が各
イベントや行事で販売する
商品の製造や商品開発に活
用されている。キャンプ場
の利用実績は、77件173
人の利用となっている。28

年と29年はヒゲマ出沒のた
め8月以降の利用を制限し
たので減少している。
管理棟の転用は利用状況
を見ながら検討したい。

熊牛コミセンの改修と 活用内容は

問 熊牛コミュニティセン
ターは築何年で改修内容は。
また、新しくなるので宿
泊所としての活用は。

答 この施設は昭和61年建
設で築32年である。370
0万円の改修内容は、屋根
の葺き替えと外壁の張り替
え。内部は男女別のトイレ
に改修、流し台の更新など
台所を全面的に改修するほ
か、照明器具のLED化、

暖房設備の更新を行う。

工期は8月から11月まで
と考えている。

また、国道沿いにあるこ
の施設を宿泊所として活用
してはとの提言であるが、
地域のコミュニティ活動
の中心拠点として、地域行
事などに活用する施設であ
り、現時点では宿泊所とし
ての活用は考えていない。

就農待機者への対策は

問 就農者研
修牧場運営費
補助500万
円は、町単独
事業で将来の
酪農家を育て
るために活用
され、有効で
ある反面、研
修終了後の就
農先が決まら
ないケースが
見られる。農
業法人やヘル
パー組合から
の就農希望者もいる。農家
戸数を維持のためにも対策
が求められるが。

答 現在4組8人の研修生
がいるが、2組が就農待ち
である。離農件数が減って
おり就農先は、減少となる。
築き上げた土地に愛着があ
る反面、後継者に悩んでい
る農家もあり、農協・関係
者との協議を進めたい。
また、管内規模での酪農
生産基盤維持も必要であり
根拠酪農ビジョンの中でも
対策が協議されている。

災害対応用無線機の 購入と樋管の改修は

問 災害時の水門班用の無線機8台を更新する予算1

66万円には本庁舎の本機

を含めているか。

また、2月に水門班独自

の訓練が行われたがその概



手動式の樋管

要と結果は。

なお、樋管の開閉は手動で行われているが、波の力で自動的に閉まる簡易な構造による樋管の改修を町の単独費を持つても早急に行うべきと考えるが。

答 移動系無線機の導入は、本機を除いた8台の購入である。

また、津波防災ステーション水門班の訓練は、今年2月18日に水門班の招集と陸開・樋管の閉鎖訓練を実施した。訓練は、日曜日、日中に抜き打ちで招集。招集時間の把握と参集状況を調査。想定は、電源が喪失した状況とし、陸開は、手動で閉鎖する作業、樋管も閉鎖し、所用時間の調査と訓練を実施した。

その結果は、招集に関して8割以上の職員が10分以内で参集。陸開・樋管の開鎖は早い所で10分位、遅い所で30分以上掛かる実態である。津波襲来は、21分まで到達する予測が出ており、現地に向いて陸開や樋管を閉めるのは、結果として

非現実的である。

なお、樋管の改修は、フラップ型と言う水圧で閉まる形状のものを考えており、

北海道で優先的に始めるので、道と協議し、助言を参考に検討したいと考えている。

湿原モニタリング調査の

必要性は

問 湿原モニタリング調査委託料84万円は、湿原内天然記念物エリアのエゾシカによる食害の調査研究を行うものだが、今までも同様の調査が複数回行われている。

の群落が咲き誇っているところを中心に調査し、エゾシカによる食痕が見つかり、貴重な植物が減退する可能性も指摘された。

平成22～24年度には1127万円、さらに平成26～28年度には108万円をかけ、エゾシカの行動・採食調査などを行い詳しい報告書も提出されている。似たような調査を複数年にわたり再度行う必要性は。これまで行われた6年分の調査結果を基に単年度で終わらせる考えはあるか。

今回は、天然記念物エリアでもある湿原奥を調査する予定となっている。環境省へ天然記念物内でのエゾシカによる食害などのデータを提出し、湿原内でのエゾシカの駆除に向け対策を促すことを目的としている。3カ年にわたり調査する予定ではあるが、単年度で成果が出るよう努力したい。

答 これまでの調査は、道路に近いエゾカンゾウなど

その他の予算関連審議（抽出）

- * 建物解体の優先順位は
- * 庁舎建設に必要な雨水処理と用地取得は
- * リニューアルされたらふるさと納税返礼品は
- * 浜中歯科診療所の今後は
- * 水産振興基金の運用は

- * 国直轄港湾整備事業は
- * 漁港整備の内容は

- * 湯沸岬キャンプ場改修の内容は
- * スクールカウンセラーの内容は
- * 丸山散布避難道の基本設計成果品の報告は
- * 特定空家の処理計画は

その他の主な歳出（一般会計）

歳出の内訳	金額
地方バス路線維持対策補助（くしろバスほか）	2138万円
子ども医療費扶助費（高校生まで無料）	2457万円
厚岸郡広域救急医療体制負担金（厚岸町へ）	1522万円
可燃ごみ焼却委託料（根室市へ）	4203万円
新川船揚場整備工事（4年計画の2年目）	5000万円
丸山散布物揚場整備工事（最終年）	3976万円
ルパン三世地域活性化プロジェクト（運営補助ほか）	1110万円
スクールバス購入（2台）	1240万円

意見書

可決

◆ 防災・減災体制の更なる強化を求める意見書

・ 防災・減災対策事業に対する財源措置の拡充に向け早期防災体制構築のための情報提供や税・財政支援など各種支援策の拡充・強化について要望した。

（全員賛成）

可決された意見書は、内閣総理大臣をはじめ関係大臣、衆・参両議院議長に提出しました。

条例の改正を議決

- 国保財政調整基金条例の制定

・ 将来の財政負担への備えとして必要な財源を確保する基金を設置するもの。

- 国保条例の一部を改正
- ・ 葬祭費現行1万円を3万円に改正するもの。

- 浜中診療所条例の一部を改正

・ 茶内診療所の閉所に伴い条例の規定から削るもの。

- 地域活動支援センター・子ども発達支援センター設置条例の制定
- ・ 平成30年5月から供用開始される旧榊町小を活用するセンターの設置条例。

- 介護保険条例の一部を改正

・ 平成30～32年度までの基準保険料を現行3958円から744円増の4702円に設定。

補正予算を議決

■ 一般会計

ふるさと納税基金積立金1億130万円および公共施設整備基金積立金10億5008万円、歯科医師退職報奨金2071万円、除雪業務委託料2000万円の追加のほか年度末における事業費の確定などによる減額で、予算総額を89億4881万円とした。

■ 特別会計など

◎ 特別会計

- ・ 国民健康保険特別会計
- ・ 後期高齢者医療特別会計
- ・ 介護保険特別会計
- ・ 浜中診療所特別会計
- ・ 下水道事業特別会計
- ◎ 企業会計
- ・ 水道事業会計

特別会計、企業会計ともに平成29年度実績見込みに基づく補正。

委員会レポート

◆調査の概要

○婚活応援プログラムの実施

北海道コンカツ情報コンシェルは、道内の婚活イベントの紹介、婚活希望者の相談支援などを行っている。月に200件ほど寄せら

婚活支援を新たな手法で

10月30日から3日間、道内の婚活応援プログラムや浜中町産豚肉の流通状況、バイオガス発電施設などを視察し、3月定例会で報告

総務経済
常任委員会

れる相談対応のスタンスを「必ずしも結婚を最終目標とはしない」とし、可能な限り相談者に寄り添いつつライフプランを提案している。

なお、婚活イベントの成功事例として紹介された市内の「キタコン」は、飲食店経営者のグループによって、現在までに9回実施され、参加者総数は492人、「キタコンビ」と呼ぶカッパルの成立は52組、成婚となったのは7組とのことである。

○浜中町産豚肉の加工・流通の状況

スターゼンミートプロセスサー(株)石狩工場では、年間11万頭の豚と千百頭の牛を加工処理しており、トンタス浜中(株)から「北海道はまなかほえいとん」の全量、年間1万6千頭ほどを受け入れており、高い評価をい

ただいた。

○バイオガス発電

士幌町のバイオガスプラントでは、パイプラインにより牛舎から糞尿を受け入れ、原料槽で下処理の後、発酵処理する。ガスについては発電に使用し、消化液は地域の酪農業・畑作業で活用している。嫌気性の発酵方法により施設内で臭気はまったく感じられず、スラリーストア周辺も殆ど無臭であった。

◆調査意見

○婚活支援は、従来からの「婚活パーティーを開催し、参加者が多ければ成功」といった実施方法を改め、初参加の方でも溶け込みやすい交流会的な形の開催方法が有効ではないかと考える。なによりも、結婚希望者本人はもとより、担当者、関係者の本気度・真剣度を高め維持することが重要な

ので、行政主導による「ぜひ住んでみたい」と思ってもらえるまちづくりと関連させながら進めることが重要である。

○浜中町産豚肉の国内外での高い評価は「はまなかブランド」をさらに全国に広げる好機と捉え、行政としても効果的な支援を期待する。

○家畜糞尿系バイオガス発電は、木質や廃棄物など他のバイオガスに比べ収集・保管が容易なことから大酪農郷を擁する本町にとって非常に有用と考える。

本町は、肥培かんがい処理施設を整備し、家畜糞尿による環境汚染防止に早くから取り組んでおり、関係機関からも高

い評価を得ているが、バイオガス発電の導入により電力の安定供給、温室効果ガスや臭気の抑制、液肥・堆肥の有効利用など、さらに高い次元での環境対策が実現可能と考えられるため、取り組むにあたっては、行政と産業団体などが一体となった検討が必要である。



士幌町のバイオガス発電

「浜中学」の更なる発展に向け 総合的な取り組みを

11月15日から4日間、沖縄県与那原町、
島根県立隠岐島前高校を視察し、3月定例会で報告

人口では3倍にも達し、気候の差も著しい。このようにあらゆる面で異なる地を相互訪問し、お互いの交流と理解を深め、将来を担う人材育成を行う事業が「青少年少女相互交流事業」である。

この事業は、平成7年に両商工会青年部との姉妹提携を結んで以来今年まで22回となり、本町からの派遣児童は176人、与那原からの来町児童は119人になる。

●魅力ある高校の運営

●島根県隠岐郡海士町島前高校魅力化プロジェクト

隠岐島前高校では、平成20年2月に島前3町村と県立高校が連携し、生徒入学率の増加と島外からの生徒入学数の増加を指標とした改革の構想を作成した。地域づくりを担うリーダー育成を目指す「地域創造コース」と少人数指導で難関大学にも進学できる「特別進学コース」を開始。学校連携型の公営塾「隠岐国学習センター」を創設し、学習意欲を高める独自の学習プ

ログラムを展開した。

こうした取り組みの結果、平成22年度の卒業生は約3割が国立大学に合格し、入学者も平成20年度には28人だったが、平成24年度から2学級となり県外の入学者を含め59人と倍増した。

◆調査意見

●姉妹提携を結んだ両青年部が、積極的に取り組んでいる青少年少女相互交流事業は青少年の健全育成に大きな成果を挙げている。参加児童は、浜中町ひいては北海道を見つめ直すきっかけを得たように思う。全く違う文化や生活環境に触れ沢山の刺激を受ける体験は、成長していく中で必ず役に立つものである。この交流事業が縁で民間での商取引も行われており、今後の可能性を感じた。これは、20年以上続いている当町と与那原町との強い絆と両商工会青年部員の熱意の賜物であり、行政の強い支援のもと更なる交流の拡大を願う。

●霧多布高校で「浜中学」が始められて5年になる。



特色ある取り組みの島前高校

◆調査の概要

●青少年の健全育成

・沖縄県与那原町・浜中町
青少年少女相互交流事業

沖縄県与那原町は、沖縄本島で一番小さな町である。近年は、沖縄県において人口増加率1位を記録するなど、沖縄本島東部の中核都市へと急速に発展を続けている。面積では本町の80分の1にも満たないが、

「浜中学」の学習を通して自分が住む郷土を理解し、未知のことを発見することで浜中町の魅力を理解する。地場産業や環境のあり方を理解し、町が抱える課題を探索する。他地域の調査・視察をする研修派遣事業で解決策を探索する。課題解決策の探索、まとめ、情報発信するという一連の教育は、隠岐島前高校の「地域創造コース」に通ずるところがあり、隠岐島前高校での成功例を目の当たりにし、

「浜中学」の方向性が正しいことを確信した。「浜中学」は、地域に根差し、町を創生する人材の育成に寄与している。

霧多布高校の海外、道外、道内研修の発表の内容は目を見張るものがある。

生徒、父母、教師が丸土への誇りを醸成する学習を関係機関が背中を押してやれる総合的な取り組みが求められている。

全員協議会活動レポート

議会には、2つの常任委員会（総務経済・社会文教）があり、所管事項の調査活動をしているが、議長が主宰する全員協議会で協議検討している事項の報告をします。



12月15日、小松道議を介し町長および9議員による新庁舎建設などの財源確保に向けた要望活動を道庁にて行った。

要望事項は、時限立法である緊急防災減債事業債の延長と採択を要望。窪田副知事をはじめ、渡辺建設部長、清水土木局長など幹部職員が対応。要望した道々避難道の整備を進める意向を示していたただいたほか、庁舎の財源対策は中央省庁へ具申するが、直接出向くことも必要との助言を受けるなど有益な活動となりました。

**新庁舎などの財源対策を
北海道へ要望！**

新庁舎建設の動向

＝実施設計による概算工事費とスケジュールの前倒しが可能＝

役場新庁舎建設工事に係る財源イメージ（3月末現在）

（単位：千円）

工事項目	概算29.11.28	概算30.3.27	緊防債	一般財源	備考
実施設計	159,840	159,840	145,900	13,940	
新庁舎建設工事 (建築主体工事・電気設備工事・ 機械設備工事)	2,461,644	2,461,644	1,708,800	752,844	役場新庁舎 4,180㎡ (役場新庁舎 3,207㎡ 防災センター 973㎡)
庁舎新築工事	1,910,544	1,910,544	1,157,700	752,844	
防災センター新築工事	551,100	551,100	551,100	0	
新庁舎敷地造成工事	309,204	309,204	281,400	27,804	敷地面積 18,400㎡
防災貯留槽建設工事（防災センター事業）	177,984	177,984	145,900	32,084	貯留槽 780 t
非常用発電設備工事（防災センター事業）	230,472	104,868	104,800	68	非常用発電機1基、建屋1棟、 オイルタンク1基
倉庫類建設工事	81,648	52,380	0	52,380	倉庫1棟 車庫2棟
避難道路建設工事	822,528	822,528	822,500	28	道路延長 675m
テレビ中継局送信所接続道路建設工事	17,928	17,928	0	17,928	道路延長 110m
防災広場建設工事	420,768	419,535	419,500	35	敷地面積 17,300㎡
総合計	4,682,016	※4,525,911	3,628,800	897,111	

※事業費は、あくまでも平成30年3月末現在の状況であり、今後も変動する可能性があります。

一般質問

川村 義春 議員



町内全域に 光通信網の整備を

次期総合計画の 重点事業化を検討

問

答

川村 霧多布地区（湯沸を除く）から半径4kmを除く情報通信環境は、光ファイバー網の未整備地域であり、多くの町民や企業からISDN回線は速度が遅い、無線ラン（FWA）は画像が乱れるなど不満の声が聞かれる。整備地域との格差解消を含め、光回線の整備を進める考えは。

町長 霧多布地区との格差

を解消する意味で有線による光回線の整備が望ましい。**川村** 管内町村では白糠町と標茶町を除く全町村が光回線である。総務省の補助制度を活用し、整備すべきと思うが、概算費用は。

町長 総務省の情報通信基盤整備推進事業補助は、事業費の2分の1補助で辺地債や過疎債の活用も可能であるが、FWA導入時、この補助で整備していることから再度の活用は、ハードルが高く厳しいものがある。9年前、NTTに確認した事業費は10億円である。

川村 総務省への要請を通して補助採択されると事業費の半分5億円で推進でき、年次計画をもって、年1億の5年で整備は可能では。

町長 国庫補助事業として採択になれば、起債の対象になるが、NTTは費用対効果の観点から採算の取れない地域への設備投資は難しいとのスタンス。事業化すると明言できないが、国や民間事業者にお願いして光回線化に向け努力したい。



盗難防止用監視カメラ

川村 光ファイバー網の整備は、霧高生や都会の大学生（アンバサダー）が町長へ提言したまちづくり事業の具現化が早まると思うので、光回線化を次期総合計画に盛り込み、年次計画で推進すべきと思うが。

町長 国や業者の支援を得て第6期総合計画に載せていきたい。

問 超高度監視カメラの設置で密漁防止を盗難の抑止力からも導入を検討する

川村 ウニやカキなど水産

資源を目的とした盗難が横行している。

密漁防止と津波災害時の避難、被災状況の確認も兼ねた赤外線付き超高度度の監視カメラを岬展望台と琵琶瀬高台、新庁舎屋上に配備を。

町長 防犯対策に効果がある監視カメラの設置を支援したい。水産振興基金の活用との提言もあったが、高額であり、道補助の活用など漁協とも協議し検討していきたい。

一般質問

田甫 哲朗 議員



問 霧多布中学校
移転改築の計画は

答 総合計画の中で
協議検討して行く



霧多布中学校

田甫 2年前に委託料334万円で「津波避難区域基礎調査」が実施された。霧多布中学校が所在する地区の調査結果は。

町長 現状では、全員が高台に21分以内で避難することとは困難との結果であった。
田甫 霧中では抜き打ち的に避難訓練を実施し、避難時間はクリアしているのので大丈夫との考えか。

教育長 気象・路面状況や実際の交通量など不確定要素があり、安心・安全とは言い難い。

田甫 耐震改修が施されて倒壊の心配はなくなったが築年数からも移転改築を検討する時期と考える。
教育長 適正配置も含め移転を協議する上で大事なことは、生徒が一日の大半を過ごす場であることから施設老朽化の視点、児童生徒の人数、災害対策などが大事と考えている。

田甫 児童生徒数の推移を予測するためには、年代別の人口推計が必要と思うが。

町長 浜中町人口ビジョンを基に、地区別年代別人口推計を作成する。
田甫 財源対策も含め、霧中の移転を総合計画に明記し検討協議をすべきでは。
教育長 32年度からの第6期「浜中町総合計画」の中

に協議・検討することを載せ取り組んでいく。

問 災害対策拠点の整備は

答 財源・優先順位を考慮して

田甫 庁舎完成移転後の第2対策本部の位置付けは。
町長 茶内支所と考えている。

田甫 内陸部は、揺れが収まった直後からの被害対応となる。酪農業にとって断水が最大の懸念であり、市街地では火災が脅威である。支所の耐震改修に併せ、消防車両の大型化に対応した改修が求められるが。

また、電話不通時の通信手段は。

町長 水道は状況に合わせて迅速な対応策が、業者との間でできている。

支所は耐震補強を優先し財源対策も踏まえ長寿命化計画策定に併せ消防署とも協議していく。

通信手段は支所・避難所など対策拠点には衛星携帯電話を配備してある。

また、緊急避難場所とは無線通信を検討中である。

一般質問

加藤 弘二 議員



問

「道の駅」に 発想の転換を図るべき

答

幅広い意見を 聞きながら進めたい

加藤 町長は、改選時に「道の駅」に取り組むことを公約としたが現在どうなっているか。

町長 町としては、町内4つの産業団体代表と検討してきたが、方向を未だ見出してはいない。焦らずに取り組んでいきたい。

加藤 女子大生アンバサダーの観光客呼び寄せる具体系案も出たが実行に難しさ

が有る。「道の駅」構想に結論が出ない理由に、どんなことがあげられるか。

町長 SNSを活用し周知する方法もあるが、産業振興を基本に進めていきたい思いである。

加藤 「道の駅」構想は、発想の転換を図るべきだと思

う。
通過したついでに道の駅に寄るのではなく、道の駅を目指して多くの観光客を呼ぶのである。

私案だが道の駅のメインを新進気鋭の芸術家による大きなスペースを割いて現代アートの作品を3点位展示する美術館にし、浜中町内の公共施設や空き家を改造し50カ所の展示会場を作り、都会や地方で活躍している作家たちの作品を展示する。

町中を芸術の街にし、町民も楽しめるし、来客にとっては素晴らしい大自然と現代アートに満足し、リピーターとなる。展示期間は夏場でも涼しい7月から8月までの一カ月間。時あたかも昆布干しの最盛期、一

次産業の働く姿に愛着を持ってくれるでしょう。一カ月に20万人を集める取り組みをするという案である。町民の手によって、良い案を作ってみてはどうか。

教育長 私は絵画展にはよ

く行っている。興味深い話だとは思う。

町長 夢のある構想だとは思う。プロジェクトチームで私案として紹介するなど幅広い意見を聞きながら進めたい。



一般質問

三上 浅雄 議員



問 確率の高い巨大地震に備える救命艇の配備を

答 国や道に財源対策を求め配備を検討

三上 本年2月9日、政府が発表した千島海溝型地震予測は、30年以内に根室沖でマグニチュード8〜8.5の巨大地震が発生する確率は、80%と予測された。町長の受け止め方は。

町長 今までは北海道の発表を基準に、防災計画を作っていたので非常に驚きと脅威を感じている。

三上 避難困難区域の暮帰

別、新川、仲の浜、琵琶瀬地区への救命艇の配備の考えはないか。

町長 救命艇は一艇1500万円で補助対象外なので道や国に財源支援を求めながら配備を検討したい。

問 婚活事業の進捗は

答 組織を立ち上げ検討

三上 婚活事業は町が主体となつて積極的に進めると答弁されたが今現在の進捗状況は。

町長 漁協、農協、商工会青年部と一度協議をして組織を作るための準備をしている。新年度より各青年部、婦人部と協議し組織を立ち上げ、その中で方向性を考える。

問 水産振興の方策は

答 養殖事業の支援を拡充

三上 水産業を取り巻く環境が変化している。近年、沖合漁業の現状は温暖化の影響なのか、あるいは魚種交代の影響なのかサケマス、サンマ、イカ、

秋サケ漁は極端な不漁になっている。もう一つの問題が人手不足で、乗組員を確保することができない状況になっている。沖合漁業は厳しい状況にある。執行方針の中でカキ養殖試験事業への支援とあるが、具体的な支援内容は。

町長 新年度予算に、資材代として25万補助の65万円を充てているが、ほかの支援策も検討したい。



配備が待たれる救命艇

問 借入金の返済計画は

答 計画的に返済できる

三上 町では新庁舎の建設をはじめ、給食センター、茶内保育所など大型事業が実施されている。その返済計画は立っているか。借入金金の増に伴う財政運営への影響はないか。

町長 返済計画では、平成39年にピークになるが財政運営には、影響ないものと考えている。

一般質問

秋森 新二 議員



漁業資源保全のため 広葉樹伐採に抑制を

問

関係機関と連携し 進めていく

答

秋森 近年、海岸付近の道有林で広葉樹・針葉樹から成る混交林が皆伐され、カラマツなど針葉樹単一の経済林へ変貌していく光景を眼にする。豊かな森林（混交林）は栄養分に富んだ水を安定的に海へ供給し、生物多様性の保全に大きな役割を担っていることから、伐採に際しては広葉樹の緩衝林を設けることが肝要と

思われるが町の方針は。また、道有林の施業方針に関して漁業者の意見を述べる協議の場は。

町長 町では浜中・散布両漁協女性部と連携し広葉樹主体の植樹活動を積極的にやっている。町有林での広葉樹の植樹はエゾシカによる食害の影響から難しいが、皆伐に際しては周辺の広葉樹を緩衝林として残す施業を実施している。

また、協議の場は、道有林を管理する北海道森林室が「地域住民と創る道有林

のつどい」を年に1度開催し、住民参加型の道有林づくりを行っている。

問 天然潟湖での新たなサケ放流体系の確立を

答 有効性が実証されつつあり 技術確立に期待

秋森 秋サケ漁不振の原因として、海中飼育に伴う稚魚の生育不良が指摘されている。打開策として稚魚の成長に適した「天然潟湖」活用の可能性は。

町長 道水産試験場では、汽水湖とも呼ばれる「天然潟湖」でのサケ稚魚の育成・



皆伐された道有林

放流に関する調査研究を藻散布沼と幌戸沼で平成29年度から進めている。放流時の適温である8℃が確保され、餌となる甲殻類も豊富であり、回帰率が海中飼育の2・5倍となる調査報告がされており、漁獲量の増加に期待している。

問 新規漁業就業者へ独自の支援策を

答 両漁協と連携し進めていきたい

秋森 後継者就業交付金は画期的な支援策であるが、新規漁業就業者には支援策がない。国の支援制度と連携して、漁協出資金などの助成を検討しては。

また、旧教員住宅を低額で提供する考えは。

町長 新規漁業就業者の受け入れは、漁業権に関する漁協の意向もあり、現段階で町独自支援策の拡充は困難と考えるが、漁業集落の空洞化防止のため、支援体制を構築すべく両漁協を含め協議・検討する。

また、住宅提供は、その必要性を検証し対応したい。

一般質問

前田 光治 議員



問 新庁舎屋上の展望を 活かした有効活用を

答 防災アンテナの設置で 展望活用は難しい

前田 新庁舎の建設に向け現在実施設計の段階にあるが、建設予定の庁舎は3階建てであり、屋上からの展望は浜中湾や琵琶瀬湾から内陸の霧多布湿原に広がる大地を展望できる絶好の場所と予想される。

町長 防災機能を備えた庁舎であり、屋上は防災情報発信するためのアンテナ設置が予定されているほか、それらの機器などを管理するスペースも確保する必要もある。

また、隣接する「ゆうゆ」の入浴客への配慮も必要であるので、町民や観光客向けのイベント会場や展望スペースとするには転落防止策の設置、屋上床の防水工事などの費用も嵩むので難しいと判断している。

問 新庁舎への避難道に ルパンの造形物を

答 今後の 検討事項である

前田 火防線道路から新庁舎へと繋がる予定の避難道歩道側に鳥取県境港市にある「水木しげるロード」のようにルパン三世をモチーフとした造形物（モニュメント）の設置をクラウドファンディング（CF）により財源確保できないか。

また、観光協会と連携してのルパンフェスティバルは継続されるのか。今後の見通しは。

町長 新庁舎内部には、モ

ンキーパンチ氏の書き下ろしイラストの展示やロビー総合案内版へのルパン三世キャラクター活用を検討している。

新設される避難道の歩道へのルパン関連の造形物設置は、観光スポットの形成を今後どのようなことができるかキャラクターモニュメントの設置などルパン三世プロジェクトと権利元と検討することになっている。また、造形物設置は権利元との協議が必要となるが、CFの活用は検討したい。

なお、ルパンフェスティバルは継続実施の予定である。



ゲゲゲの鬼太郎で有名な「水木しげるロード」

一般質問

成田 良雄 議員



問 給食費を無償化に

答 支援できるか協議を

成田 全国で学校給食を無償にする自治体が83となり今年度から実施する市町村もある。子育て支援、特に若い世代の定住や転入への効果、給食を教育の一環として捉える「食育」の推進のためにも、実施を検討すべきでは。

町長 本町では現在、子育て支援施策として、出産祝い金支給や、保育料の負担軽減



高校生への給食が始まる

減、子供医療費の全額無償化など、多くの施策を実施している。

学校給食の無償化は、財源対策などさまざまな事務的な検討が必要である。どのような形で支援できるかを今後協議をしていきたい。

問 防災対策の周知を

答 必要に応じて詳しく周知

成田 政府の地震調査委員会は昨年、北海道東部の十勝沖から択捉島沖の太平洋に横たわる千島海溝で、マグニチュード9級の超巨大地震が今後30年以内に7〜40%の確率で起きるとの予測を公表した。

住民の命を守るため一刻も早い防災対策事業の整備が急務である。その対策を町民に周知すべきと考え

町長 現在、防災センターを兼ねた役場庁舎建設、防潮堤の嵩上げ、各箇所避難道路整備事業など早期の整備を目指して進めている。町民への周知は、現在も町広報やホームページで必要に応じて周知している。今後もピックアップして、詳しく周知できるよう努めていきたい。

問 「消防団応援の店」の登録は

答 消防署の対応となる

成田 平成29年10月より、北海道と北海道消防協会が連携し、消防団員応援プロジェクトを立ち上げ、全国的に定員に満たない消防団員の確保と消防団員への特典として、「消防団応援の店」の登録を始めた。

本町の「消防団応援の店」登録への推進はどのようになっているか。

町長 今後、東部消防組合・浜中消防署が、各商店や商工会などに協力の推進を求めていくべきもの。

雲外蒼天

「浜中学」を学んで

霧多布高等学校
平成29年度卒

福士 翔也



私は中学生時代の進路活動で霧高には「浜中学」という郷土学習があることを知り、興味を持ったことを

子供の夢を育て
幸せなまちをつくりましょう。
(町民憲章より)



お姉ちゃんを見習って…新1年生

覚えていきます。入学後、実際に学んでみると、地元でありながら地域の魅力や課題を理解できていないと実感し、同時に学びを通して郷土への誇りと愛着が生まれていくのがわかりました。「浜中学」では町の魅力を高校生自身がさまざまな方法で体験し、その魅力を外部に発信するねらいもあります。実際に28年度は北海道教育大学釧路校の学生の皆さんを前に、29年度は浜中町長をはじめ浜中町議会議員の皆様、町民の皆様の前で「浜中学」の成果の発表する機会をいただきました。高校生の視点で考え

た後継者支援の充実策や定住促進にむけた取り組みについて、稚拙ながらも高年生の視点からの新しい発表ができたと思います。そして、「浜中学」の今後を考えた場合に浜中町内の小・中学生に向けても発表してはどうかと考えています。こうすることによって、私が中学生のころ「浜中学」に興味を抱いたように、自分の住む地域に関心を持った児童・生徒が増えるのではないかと思います。

私は、今春より北海道行政職員として働きます。この「浜中学」で学んだ地域の魅力を体験し、外部に発信する力はこの職場でも必要な能力だと思えます。「浜中学」で培った能力を浜中町だけではなく北海道の住みよい町づくりと更なる発展に微力ながらも貢献できるように日々精進したいと考えています。

最後に、浜中学三期生としてこれまでの教育活動にご協力いただきました皆様、誠にありがとうございます。この場を借りてお礼申し上げます。この「浜中学」の活動を通し、霧多布高校

と浜中町の無限の可能性を模索しながら、自己の能力を伸長できたことに本当に感謝しています。

● 揮毫 書道部2年A組 對馬 瑞季さん
● 読み方 うんがいそつてん
● 意味 困難を乗り越え努力して克服すれば快い青空が望めるという意味



表紙の写真

4月3日に霧多布保育所の入所式が行われました。今年には12人の子どもたちが仲間入り。桜のアーチをくぐり笑顔で入場しました。保育士に名前を呼ばれると大きな声で手をあげ返事をしていました。

保育所では遠足や焼き芋会、クリスマス会など楽しいことがいっぱいあります。たくさんお友達をつくって大きく成長してくださいね。

あしがき

冬季平昌五輪・パラリンピックを通して、競技を終えた選手一人一人の笑顔と喜びの涙、悔し涙努力を重ねた分の達成感と周りへの感謝の姿から多くの感動と勇気をもらいました。私にも前向きに4年後の目標を立ててみるのでもいいかな、と思わせてくれました。

さて、3月定例会で当初予算も決まり、新給食センターが4月から稼働、霧高生へも給食が始まります。地場産の食材を楽しんでください。

また、地域活動支援センター(旧榊町小)では要支援高齢者にお弁当の配食サービスが行われるほかセンター内ではカフェも開店します。

もうすぐ、農漁業共に天気と時間に追われる日々が続きます。少し手を休めてカフェでお茶しませんか。

(委員 堀金)